



国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク会長就任にあたって



すずき あきひろ

会長 鈴木 明裕

(西那須野内科循環器科
クリニック院長)

国際医療福祉大学病院は1998年に病床数100床で開院し、現在は353床まで増床となり、東北地区の地域医療にはなくてはならない中核的な病院へと発展いたしました。今後の地域医療はこの中核病院と診療所、そして介護施設など地域全体での対応が必要になってくると考えられます。1月に地域連携室長の柴信行先生からご提案があり、「国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク」が発足致しました。私は、西那須野塩原地区医師会長の立場でもあり、病院の開院地でもある関係上、初代の会長に就任致しました。任期は2年間で副会長の黒磯那須地区医師会長の三森薫先生と共に地域医療ネットワークの発展に努力したいと考えております。ネットワークの創成期でもあり皆様のご協力が何より必要でございます。何卒よろしくお願い申し上げます。

現在の日本は既に超高齢社会に突入しており、厚労省の医療計画では、診療所、介護施設、在宅医療等の総合的な地域医療体制に向かって一層進んでいくことが推測されます。これらを考えますと、地域住民の医療向上のためにも、現段階からスムーズな病院への患者受け入れ態勢の確立と安定期の逆紹介、介護施設への紹介、在宅医療の充実など、地域医療連携体制の確立の準備が必要と思われます。それには第一に、国際医療福祉大学病院の先生方や地域医療関係の方々、我々診療所医師との連携確立が何より必要であり、顔の見える関係確立が第一歩と考えております。つきましては、年1回の総会と講演会の開催を考えております。

本会の目的は地域住民の健康増進と維持のためのネットワークですので、地域住民との勉強会開催も予定しており、今期のテーマを「突然死撲滅キャンペーン」と致しました。地域別に小勉強会なども計画しております。

最後に重ねまして、当地区医療関係の先生方には、会の趣旨をご理解賜りまして、地域住民の医療向上のために、ご入会の程何卒よろしくお願い申し上げます。

国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク設立にあたって

現在の、そしてこれからの医療は、一つの医療機関で成り立つものではなく、地域の医療福祉機関の全てがそれぞれの役割を果たす中で、患者さんは時には病状の変化によってより適切な医療機関へと速やかに移り、その状態に合った最適な医療や福祉を受けることが不可欠です。そのためには、広域地域の医療機関や福祉機関が日頃から十分な情報交換をして、速やかな連携体制を組むことが必要で、これがあって初めて患者さんには病院間の転院や病院退院後のかかりつけ医への受診を安心して継続していただけます。

この目的のために、地域医師会の皆様とご相談して「国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク」ができ、病院がある西那須野塩原地区医師会長の鈴木明裕先生に初代の会長をお引き受けいただくことができました。より速やかで最適な医療と福祉を提供するための病院間・病院とかかりつけ医・病院やかかりつけ医と福祉機関・等々の医療関連機関の立体的なネットワークで患者さんと家族を支える、そういう地域の創生につとめるのが目的です。地域医療福祉機関の皆様、地域医師会の皆様、そして地域住民の皆様にはこの趣旨をご理解いただき、安心して暮らせる地域の創生に共に手を携えつつご支援いただければ幸いです。



病院長

ももい まりこ
桃井 眞里子



地域医療連携室 月曜日～土曜日 9:00～17:30
TEL0287-38-2786 (直通) FAX 0287-38-2787
医療相談室 月曜日～土曜日 9:00～17:30
TEL0287-38-2798 (直通) FAX 0287-38-2787

休診日・夜間等の救急紹介の場合は、0287-37-2221 (代表) から担当医師に取り次ぎます。
地域医療連携室ホームページ URL: <http://hospital.iuhw.ac.jp/cooperation/index.html>

国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワークの概要

～未来志向型の新しい連携システム～

平成28年1月26日、那須郡市医師会と国際医療福祉大学病院の間で未来志向型の新しい連携システムである国際医療福祉大学病院地域医療福祉ネットワーク（以下ネットワーク）が発足いたしました。わが国では、急速な「少子高齢化」や「2025年問題」、さらには2038年がピークとされる「多死の時代」など、われわれの将来を左右する大きな社会問題が進行しています。厚生労働省は高齢者が自立した尊厳ある人生をおくることができるようにと地域の特性に合わせた地域包括ケアシステムの確立を目指していますが、その取り組みはまだ始まったばかりです。一方、栃木県県北地域においては超高齢社会の到来のみならず、医療・福祉・介護リソースの不足が地域医療の改善と普及の妨げとなってきました。地域医療向上の方策として、医療機関の機能分化と医療・福祉・介護従事者の連携と充足が必須であることは論を待ちません。この様な背景のもと、ネットワークは表1にあげた5つの目標を掲げて発足いたしました。地域連携室では那須郡市医師会・大田原地区医師会・西那須野塩原地区医師会・黒磯那須地区医師会の役員の先生方と議論を重ねてまいりましたが、患者さんを中心にした、県北地域の医療・福祉・介護の包括的なネットワークを最終コンセプトとし（図）、初期段階として那須郡市医師会と国際医療福祉大学病院の病診連携を主軸に発足させていただくことになりました。また、この地域のメディアの皆様、さらには栃木県・那須塩原市にもネットワークの趣旨をご説明しご指導を頂く予定であります。



地域医療連携室部長
しば のぶゆき
柴 信行

地域医療福祉ネットワークの目的

1. 県北地域完結型の質の高い医療・福祉・介護を提供
2. 地域包括ケアシステムの構築と推進に協力
3. 医療・福祉・介護の円滑な連携
4. 医療・福祉・介護従事者の教育と育成
5. 医学研究の地盤形成

表1 地域医療福祉ネットワークの目的

ネットワーク役員(平成28年1月26日付)

会長	西那須野内科循環器科クリニック	鈴木明裕先生
副会長	三森医院	三森 薫先生
顧問	江部医院	江部 寛先生
	小沼内科胃腸科クリニック	小沼 一郎先生
	国際医療福祉大学病院	桃井真里子
世話人	国際医療福祉大学病院	柴 信行
事務局	国際医療福祉大学病院	吉成和子

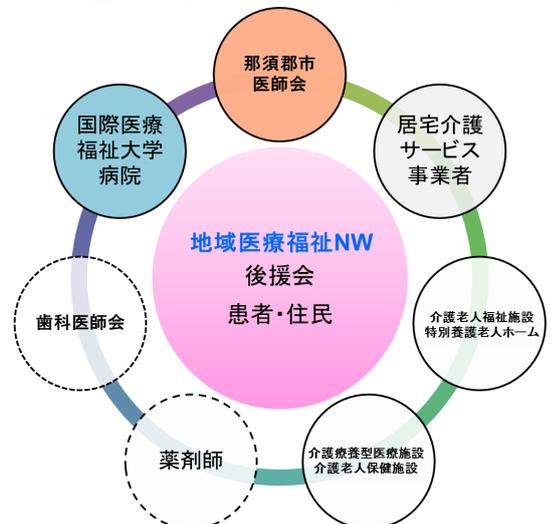
表2 地域医療福祉ネットワーク初代役員

本ネットワークの会員は「連携医」とお呼びすることにし、趣旨にご賛同頂いた那須郡市医師会の先生方を簡単な手続きで登録をさせていただきます。会費は無料です。第一回の役員会で会則の公布とネットワーク役員選出が行われ、初代会長に鈴木明裕先生が選ばれました（表2）。ネットワークでは、年一回の総会・特別講演会に加えて、定例会・講演会や事業を必要に応じて企画します。第一回ネットワーク総会は平成28年5～6月に予定しており、ネットワークで行う事業や連携の詳細については連携医の皆様と討議しながら決定していきたいと思っております。すでに「突然死撲滅キャンペーン」、「病診連携ツールの開発」などの事業が予定されていますが、連携医の皆様の忌憚のないご意見やアイデアをとりいれて、現場のニーズに即したものにしていきたいと思います。

また、ネットワークの中心は患者さんや一般住民ですから、本年3月16日に発足いたしました県北地域の商工会議所を中心とした国際医療福祉大学病院後援会（会長 西那須野商工会 佐藤幹雄様）にもご協力を頂く予定です。

超高齢社会が進行する栃木県県北地域で質の高い完結型医療を長期にわたって提供し、住民の方々に健康長寿を享受して頂くためには、この地域の医療・介護・福祉に携わるわれわれ医療者の、顔の見えるネットワークが不可欠と考えております。那須郡市医師会会員の皆様のご登録とご協力を切にお願い申し上げます。

図 ネットワークの概要



地域医療福祉ネットワーク連携医の登録連絡先

FAX 0287-38-2787 お問い合わせ TEL 0287-38-2786

那須塩原市の取り組み

みなさんの元気を支える「地域包括支援センター」

地域包括支援センターは、高齢者のみなさんが住み慣れた地域で安心した生活を続けられるように支援を行う総合相談窓口です。相談には、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師などの専門職が連携して、総合的な支援を行います。

地域包括支援センターではこんな業務をしています。

様々な相談に対応します（総合相談支援）

高齢者のみなさんやご家族、地域の方からの相談や悩みにお応えし、情報の提供やサービスの紹介をします。介護や健康のことだけでなく、生活全般について何でもご相談ください。



地域包括支援センター あぐり

私たちは、「つなげよう、地域の力と福祉の輪！」を基本スローガンとして、地域に根ざしたセンター運営を心がけております。

国が地域包括ケアシステムの構築を進める中、私たちはこのシステムと地域住民をつなぎ、住み慣れた地域でできるだけ元気に生活ができるようお手伝いをさせて頂いております。

☆こんな時には、ご相談ください。

- 介護保険サービスについて知りたい・利用したい
- 高齢者の福祉サービスについて知りたい・利用したい
- 要介護になるのを予防したい（介護予防）
- 認知症について知りたい・予防したい
- 近くに心配な高齢者がいる

高齢者の支援や、地域の支え合いについて検討する、「草の根ケアネット会議」を毎月第4金曜日にとようら公民館で開催しています。興味、関心がある方は、当センターへお問い合わせください。

「草の根ケアネット会議」担当 池澤



左から 池澤 主任介護支援専門員
宮脇 保健師
川島 社会福祉士

<連絡先>

住所 那須塩原市鍋掛1416-3
電話 0287-73-2550
担当圏域 とようら公民館区
厚崎公民館区の一部
営業日 年中無休
時間 午前9時～午後6時

稲村いたむろ地域包括支援センター

<担当地区> 稲村地区・高林地区

当センターは、黒磯地区の北側の農村地域と団地や新興住宅地が混在している「稲村地区」と、板室温泉や鳴内の田舎ランドのある山岳地帯を含む、農村地区や別荘も多い「高林地区」を担当しています。面積ではNo.1の担当地域ですので、日々安全運転をこころがけて、皆さまの地域をまわっています。

主任ケアマネ・社会福祉士・看護師の4人体制（内1名育児休暇中）で、皆様が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域の関係者の方々と連携して支援をさせて頂いています。

また、地域のいきがいサロン等で「転倒予防について」や「認知症について」などの出前講座も行っています。



左から) 鈴木 社会福祉士
月井 主任介護支援専門員
熊谷 看護師

<連絡先>

住所：那須塩原市東原166（特別養護老人ホームあじさい苑に併設）
電話：0287-60-3361
営業日：月～土 午前8時45分～午後5時45分、日曜休み
メールアドレス：zaikai@nasu-kaigo.or.jp



医療法人社団萌彰会 那須脳神経外科病院

病病連携と人材教育の大切さ。

インタビュー

「かけはし」では、地域の先生方にインタビューをさせていただき地域医療に関わるお話やお知らせをお届けしたいと思います。今回は那須都市医師会副会長の深町先生にお願いしました。



ふかまち あきら

深町 彰 病院長

・那須都市医師会
副医師会長

当院との医療連携について期待されることはどのような事ですか？

私は、この地に平成3年に来ました。その頃は脳の出血性の患者さんが多かったのですが、最近では大きな脳内出血の患者さんが減ってきているように思います。一方、脳梗塞が多くなり、特に循環器疾患で心房細動との関連性が増えて来ています。これらは、高血圧症や糖尿病などに対する治療法が進歩してきているため、病態が変わってきているのかな、と考えています。このように脳疾患の診療をしていますと、どうしても心臓疾患をもつ患者さんを診る機会が多くなります。軽い心臓病であれば、当院の心臓血管内科の医師に診てもらっていますが、心筋梗塞や心不全、不整脈で重症な疾患は紹介させていただいています。特に、国際医療福祉大学病院の『循環器内科24時間ホットライン』が有効であったと思います。ただ過去に1回、電話がつながらなかったこともあったので、出来る限り円滑な受入れを期待しています。あとは、高度先進医療の象徴である特定機能病院への昇格を願っています。また、大学病院の役割の一つとして地域への医療スタッフの派遣も担っていると思いますので、そのようなシステムの構築も期待しています。

ご自分のクリニックで力を入れていることを教えてください。

栃木県における脳血管障害による死亡率の高さは昔から有名な話で、私がこの地に来た頃、多くの方々がくも膜下出血の病名とその本質を知っていることに驚きました。それだけ、親族や近在の人がくも膜下出血で倒れることが多い地域であったのだ、と感じました。

当病院では、特に最先端の医療手段でさまざまな脳疾患の予防と治療、脳ドックなどを行っています。MRI検査などの機器を使いながら症状の経過を観察し、手術の必要性があるかどうかを判断しつつ、一人ひとり患者さんに向き合っています。また、糖尿病などの内科疾患やめまい、頭痛などの症状で来院される患者さんも多く、その状態などを医師、看護師ともに細かくお聞きして診療をし、脳卒中の予防などを多くの方々に伝えるよう取り組んでいます。それらをもとに、栃木県の脳卒中死亡率を全国のワースト5から脱することが出来るよう、念願し努力しています。

ご自分のストレス解消法を教えてください。

学生時代からテニスをしておりましたが、この地に来てからはゴルフを始めました。テニスより、ゴルフする方が多いことは意外でした。これはゴルフ場の多さからでしょうか。ゴルフをしながら、体力維持を図りつつ、ストレスを解消し（スコアによってはかえってストレスになりますが・・・）、人とのコミュニケーションも努めて取るようにしています。もっとも最近では、忙しいのでなかなかゴルフ場に行けないのが残念です。

最後に地域の方々、患者さんへ一言 お願いします。

…患者さんが求めていること、若い先生方へ一言

患者さんが特に医師に求めていることは、適切な治療とともに、よく話を聞いてくれることではないでしょうか。最近は電子化が進み、コンピューターに向かって患者さんの顔をあまり見ないで診察をしている医師が多いようで、訴えをゆっくり聞くことも少なくなっていると感じています。専門医の前に人であって欲しいな、と思っています。これからの人材育成には、そのあたりの教育も必要になってくるのではないかと考えています。偏差値教育のためか、成績優秀なものが医師になる傾向があるようですが、積極性や協調性があり、かつ人の心が分る医師が多くなって欲しいものです。今更こんなことを言うのは、いわば中期高齢者の繰りごとでしょうか。

最後に患者さんへは、「どんなに医療が進歩しても、全例100%の結果を得ることは決してない」といつも申し上げています。この点に関し、国際医療福祉大学病院長の桃井真里子先生がお書きになった、2015年11月8日の下野新聞日曜論壇の【医療は本来リスクを伴う】を是非お読みいただければ、と思っています。勿論、医師としての努力をしておりますことは、蛇足ですが追記しておきます。

【基本情報】



病院長 深町 彰



内科・呼吸器科・循環器科・神経内科
診療科目 脳外科・リハビリテーション科

住 所 那須塩原市野間神沼453-14

休診日 日・祝日

電 話 0287-62-5500



2016/3/28 国際医療福祉大学病院
発行：地域医療連携室